



阿蘇草原の牧野（ぼくや）体験

～環境・社会・経済のつながりを考える～



【背景①】阿蘇草原を取り巻く状況と問題意識

- 採草放牧、野焼き等の人々の営みにより守られてきた阿蘇草原であるが、生活様式や社会経済の変化に伴って野草利用が減少し、さらに農畜産業者の高齢化や後継者不足等により、従来のやり方だけでの草原維持が難しくなりつつある。
- そのような状況の中で、地元関係者や行政などで組織される阿蘇草原再生協議会では、30年後の目標として「今と変わらない草原の規模を残す」方向で、議論が進んでいる。
- そのためには、多様な関わりで草原を支える仕組みが必要。その一環として新たな牧野利用を推進し、利用者から牧野管理への協力金負担などの仕組みを構築したい。

1900年頃



2007年



土地利用分類

- 森林
- 牧野・野草地・裸地
- 農地（畑）
- 農地（水田）
- 未分類(宅地・水面等)

1. 基本情報

タイトル	阿蘇草原の牧野体験～環境・社会・経済のつながりを考える～
プログラム概要	年間1,000万人を超える観光客を魅了する大草原は、1,000年以上もの間、農畜産業の営みによって維持されてきた。このプログラムでは、 <u>地元の方々と一緒に、その牧野（ぼくや）作業を体験する。</u> また、 <u>各地域に戻った後に、環境・経済・社会の3つの側面から地域の課題を考えるきっかけを提供する。</u>
対象	高校生
体験時間	1日プラン：8時間／半日プラン：5時間 ※両プランとも昼食（草原にちなんだお弁当）を含む
体験料	4,500円/人（8時間）／4,000円/人（5時間） ※利用者負担金500円を含む
受入時期	9～11月
受入可能人数	最大40～80人程度/1牧野当たり
必要スタッフ	牧野組合員等：生徒8～10人に対し1名を配置予定 事後学習スタッフ：1～2名

2. プログラム内容

牧野作業体験

- 輪地切りの作業体験(大鎌を使っての草刈りや草寄せ作業)。合わせて、刈った草を使い、草小積みづくりも行う。
- また体験と合わせて、牧野組合員に、草資源を生活の中でどのように活用していたか、昔話も交えてしていただく。
- どうして草原が「水源涵養」「炭素固定」「自然災害防止」「生物多様性」といった点で優れるのか、生徒自身で観察する。

事後学習 (グループワーク)

- 草原が優れた多面的機能を持つ理由について考察する。
- 阿蘇草原を題材に、環境の課題(=草原の減少、それに付随する草原が持つ機能の低下)が、社会の課題(=人口減少、生活様式の変化など)、経済の課題(=農畜産業の市場規模の縮小など)とつながっていることを実感してもらう。
- その上で、生徒自身の地域における課題を、環境—社会—経済の観点で見たときに、どういった課題解決策が考え得るか、考察する。

3. タイムスケジュール例

<1日プランの場合>

- 9:00 (30分) 牧野集合、オリエンテーション、出発
- 9:30 (30分) 移動、体験準備
- 10:00 (120分) 牧野作業体験
- 12:00 (60分) 昼食休憩 草原にちなんだ食材のお弁当
- 13:00 (90分) 牧野散策
- 14:30 (20分) バスへ移動
- 14:50 (40分) バス移動※乗降車時間含む
- 15:30 (90分) 草原学習館にて事後学習
- 17:00 終了



草小積づくり